

第 15 回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和 6 年 1 月 23 日（火） 18 時 00 分～19 時 30 分

⇒18 時 00 分～19 時10分

【場所】 小諸市役所 3 階 第 1 ・ 第 2 会議室

【出席者】:細谷会長、木内副会長、原委員、村田委員、宇野委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、事務局

【欠席者】:依田委員、塩川委員

1 開 会

2 挨拶

【会長】

1月1日に能登半島で大きな地震があった。

倒壊した家屋が多く、災害廃棄物を処理するのに時間がかかると思った。

小諸もいつ災害に遭うか分からない。

どのように災害に備えるかが重要であると考えている。

3 会議事項

(1) 次期ごみ処理基本計画案について

【事務局】

⇒次期ごみ処理基本計画案の説明を行い、委員の意見を求めた。

○ 次期ごみ処理基本計画案

現在、パブリックコメントを実施している。

今回は、変更点を中心に説明させてもらう。

まず、市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量の目標数値を高くした方が良いという意見が出たため、「785g」から「767g」に変更した。

ごみ処理基本計画の策定スケジュールを正しい内容に変更した。

また、組成調査結果を入れた方が良いという意見もあったため、組成調査の表やグラフを追加した。

平成27年にごみ処理量が増えている理由について、クリーンヒルの開設が原因と思料される旨を追加した。

不法投棄の回収実績を掲載した。

ごみ処理に関する市民アンケートの結果について、実情に即した方が良いと考え、生ごみの自家処理数値を削除した。

ごみ処理に関する課題の欄に「プラスチック製品の一括回収」について追加した。

ごみ処理の基本方針の部分に「スローガン」を記載した。

ごみ処理基本計画に関連する「環境基本計画の施策」を記載した。

プラスチックの再資源化で、燃やすごみの減量につながる根拠を示した。

施策の展開部分の空欄を記載した。

古紙類の混入率低下で、燃やすごみの減量につながる根拠を示した。

事業者への分別指導の目標値を設定した。

クリーンヒルこもろの課題と取り組みについて記載した。

災害廃棄物の対応フロー図の訂正を行った。

食品ロス削減計画の施策の展開についても記載した。

また、全体を通して、「ら抜き言葉」等、文章の訂正を行った。

※質疑応答、意見

【委員】

市民アンケートの結果で、「4割近い市民が生ごみを自家処理している」という部分が削除され、「地区毎で、生ごみの燃やすごみへの混入する状況に差がみられる」という表記に変更している。

コンサルティング会社のURリンケージに確認して、アンケート結果が間違っていたから訂正したのか、それとも委員からの意見があったから訂正したのか。

なぜ表記を変えたのか教えて欲しい。

【事務局】

URリンケージに確認したが、アンケート結果は合っているとのことであった。

しかし、実情では4割以上が生ごみの自家処理はしていないと思われるため、記載内容を変更した。

【委員】

私は、感覚的に4割が生ごみを自家処理しているのはおかしいと思い、意見を言っている。

しかし、市役所が感覚でアンケート内容を変更するのは良くないのではないか。

アンケート結果の用紙をちゃんとチェックしたのか。

アンケートが正しいのであれば、変更する必要はないのではないか。

【事務局】

再度検討する。

【委員】

50ページや69ページの目標数値の記載方法について意見がある。

中間年度が一番右側に記載されている。

基準年度、中間年度、目標年度の順番で記載した方が分かりやすい。

中間年度は、真ん中に記載した方が良いと考える。

【事務局】

修正を行う。

【委員】

施策の展開の部分について意見がある。

今後の方向性の実施スケジュール欄に、「実施（市民会議等が進捗状況を確認）」と記載されている。

市民会議は、常設ではないのではないか。

ごみ処理基本計画策定前に臨時で行っている会議だと思うが、この記載方法だと常設の会議だと勘違いしてしまう。

【事務局】

市民会議については、今後も継続して開催していきたい。

ごみ処理基本計画が完成すれば、現在よりも開催回数・頻度は少なくなるが、廃棄物の減量・再資源化が進んでいるのか等について、市民会議で確認いただきたい。

【委員】

市民会議は、規定上はどうなっているのか。

【事務局】

条例で、市民会議委員の任期は、「審議事項の検討が終わるまでの間」と規定されている。

廃棄物の減量・再資源化は、すぐに終わる問題ではない。

継続して審議していかなければならない内容なので、今後も市民会議は継続して開催していきたい。

【委員】

現実的に市民会議の継続は難しいと思う。

現在の市民会議は、令和2年度（令和3年3月）に第1回会議が開催され、今日が第15回会議になる。

過去の市民会議（平成28年度以前）は、途中で途切れている。

クリーンヒルこもろが開設された平成28年度に市民会議が開催されたが、それ以降、令和2年度までの約5年間開催されていない。

今後も継続して市民会議を開催するなら良いが、できないのであればごみ処理基本計画に記載しない方が良いと考える。

【事務局】

今後も継続して市民会議を実施する予定なので、是非ご協力いただきたい。

【委員】

35ページのごみ処理に関する課題の部分について意見がある。

今やるべき課題をしっかりと整理して記載できていると思う。

しかし、これだけの大きな課題を解決するためには、「誰がどのようにやっていくのか」等の細かい部分について、もっと検討していかなければならないと思う。

【事務局】

細かい部分については、年度ごとの実施計画で示していきたい。

【委員】

33ページの「市民会議等によるごみ減量に対する意見」の部分に意見がある。

これまでの市民会議で様々な意見が出たが、議論した内容が少ししか記載されていない。

これだと市民会議をやっていた意味がなくなってしまうと思う。

記載する内容は、もっとたくさんあると思う。

また、70ページの食品ロス削減推進計画の施策の欄に「重複」という記載がある。

重複とはどういう意味で記載しているのか教えて欲しい。

【事務局】

これまで市民会議で出た意見は、もう少し記載するようにしていきたい。

また、「重複」の意味は、ごみ処理基本計画と内容が重複するという意味である。

必要ない部分は、削除をしていきたい。

【委員】

今回の会議資料で、ごみ処理基本計画(概要版)も配布された。

概要版は、どのようなものになるのか。

市民に配布するためのものであれば、もう少し分かりやすい内容の方が良いのではないかと思う。

【事務局】

市民がごみ処理基本計画案の全文(約80ページ)を見るのは難しいと考え、パブリックコメント用に概要版(8ページ)を作成した。

【委員】

市民に対して、ごみ処理基本計画の配布や説明等を行わないのか。

【事務局】

紙媒体での計画の配布は考えていない。

広報等で、ホームページを見るように案内したい。

【委員】

文字だけだと、読む気がなくなると思う。

グラフや絵があって、分かりやすいものがあれば良いと思う。

【委員】

どのように市民を巻き込んでいくか、考えることが必要だと思う。

【委員】

まず、全体的に文章の中に「本市」という言葉が入っている。

なじみがない言葉であると思った。

次に、62ページのクリーンヒルこもろのCO₂排出量についてだが、分かりづらい。

t(トン)の単位をしっかりと記載しないといけない。

また、1200tのCO₂排出量を600tに半減する目標になっているが、本当に半分にできるのかが疑問である。

CO₂の排出量を記載するのであれば、クリーンヒルこもろだけでなく、市役所の施設全体のCO₂排出量を記載した方が良いのではないか。

浅麓環境施設組合等の市役所の関連施設は入れないのか。

【事務局】

ごみを焼却する時に出るCO₂排出量を記載しているため、焼却施設であるクリーンヒルこもろに絞った。

浅麓環境施設組合は、焼却に伴うCO₂排出はない。

【委員】

パブリックコメントを開始して、意見はあるか。

【事務局】

現在募集中であるが、今のところ1件もない。

ご意見があれば、是非お願いしたい。

【委員】

概要版の6ページの部分は、素案のどこに該当するのか。

内容が分かりづらいと思う。

【事務局】

素案の「施策の展開」の部分を抜き出している。

分かりづらい部分があるので、分かりやすいように訂正を行う。

【委員】

今後のごみ処理基本計画の策定スケジュールはどうなっているか。

【事務局】

令和6年1月15日から令和6年2月14日までの1カ月間、パブリックコメントを募集する。

その後、環境審議会で答申を行い、小諸市(事務局)で、計画を決定する。

そして、市議会に「報告」を行う。

市議会では、審議や議決にかけけるわけではない。

令和6年4月1日からごみ処理基本計画の公表・実施という流れになる。

【委員】

今後のスケジュールは良く分かった。

令和6年3月12日に開催予定の第16回市民会議で、最終版の提示がある。

それまでに意見があれば、事務局に連絡していただきたい。

【委員】

市の職員と衛生委員が集積所に立つ案は、実現が可能なのか。

実施できない区はあると思う。

これは、実施することが決定しているということなのか。

【事務局】

実施が決定しているというわけではない。

まずは、衛生自治会の理事会で相談を行いたい。

区の事情もあるが、事務局としては、市内全域で実施したいと考えている。

【委員】

先日、衛生自治会の理事会を行った。

ほとんどの理事が、始めて理事をやる人であった。

この状況で、衛生委員の仕事が増えるという話をしても、現実的には難しいと思う。

小諸市全体の衛生委員の人数は、約370名であり、10年前と比べると10名程人数が減ってきている。

お願いすることしかできないと考える。

【委員】

具体的に実施が可能かを検討していただきたい。

4 その他

(1) 次回市民会議日程

第16回市民会議 令和6年3月12日（火）18時～

【事務局】

1月25日、1月31日に、事業者向け説明会を実施予定である。

令和6年3月31日で、事業系ごみ指定袋の購入・クリーンヒルこもろへの事業系ごみ指定袋の搬入許可期限が満了となるため、更新時説明会と兼ねて実施する。

約600事業所に参加いただく予定であり、事業者数が多いため、2日間に日程を分けて実施する。

参加できない事業者には、後日、生活環境課窓口で個別説明を行う。

ごみの減量について、説明し、協力依頼を行う。

ご承知いただきたい。

(2) プラ新法に関わる施設見学の感想発表

【事務局】

令和5年11月24日に「プラ新法に関わる施設見学」の2日目を実施した。

少し前のことになってしまい申し訳ないが、感想を発表いただきたい。

【委員】

プラ新法に向けて、是非プラスチック資源の一括回収を進めてもらいたい。

プラスチックを原料に戻していくところがすごいと感じた。

プラスチックを一緒に出せれば、分別が分かりやすくて良いと考える。

【委員】

工場が綺麗で、複数のラインでリサイクルを行っていた。

焼却した熱を利用して、トマト等を栽培しているのが印象に残っている。

エネルギーを再利用しているので、小諸でも同じことができないかと思った。

質問になってしまうが、エネルギーを再利用して野菜等を育てる事業は、ごみ処理基本計画内でどこか該当する部分はあるか。

【事務局】

熱を利用しトマトを栽培する「アグリプロダクト」は、資源循環の分類になるのではないと思う。

小諸市のごみ処理基本計画内では、同様の内容はない。

しかし、脱炭素先行地域の関係で、該当する部分はある。

「あぐりの湯のいちご園」がお湯を捨てる熱や太陽光発電を利用して、いちごを育てる計画がある。

これがアグリプロダクトと似た事業であるを考える。

【委員】

小諸市役所庁舎とこもろ医療センターの廃熱を利用する計画があったと思うが、成果はあるのか。

【事務局】

現在も、廃熱利用事業は、現在も行っており、節電の部分で役に立っていると思われる。

脱炭素の取り組みで、エネルギーを他から買わない「ZEB」というものがある。

「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル」のことである。

今後、建物の屋根に太陽光パネルを設置する等し、電気を買わないようにする「ZEB」を目指していく予定である。

【委員】

施設や設備が大きく、プラスチックの処理過程について見学することができた。

【委員】

広大な土地で、様々な事業を行っていた。

土地に合わせて、栽培しやすいトマトやキキョウを選んでおり、補助金を上手く利用して運営しているとのことであった。

方針や経営がとても上手く、50年も廃棄物処理業を継続しているのは素晴らしいと思った。

また、会社近くの田んぼを管理できない人に代わり、田の管理や稲刈り等をしていると聞いた。

地域貢献している素晴らしい会社であると感じた。

【会長】

1月1日の能登半島地震で、富山県にも被害があった。

工場等に被害がないか心配であった。

先ほど、事務局から「工場等に大きな被害はなかった」と聞き、安心した。

今後とも、プラスチック資源の一括回収に向け、情報共有や連携等を進めていただきたい。